

第3回盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

(1) 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（案）について

(2) その他

<小川企画調整課長>

資料1を説明。

<植田座長>

5番目の付加価値の向上について、この場合の付加価値というのは、何かプラスアルファの魅力の意味で使われているのでしょうか。

<小川課長>

農畜産等の付加価値の向上ということで、畜産物を加工することによって付加価値を向上させたいというものです。

<植田座長>

ということは、プラスアルファの魅力ですよ。価値なので、例えば300円から500円となれば向上とは言わないわけで、プラスアルファの魅力という意味で付加価値という言葉が使われるのであれば、向上という言葉でも良いと思います。

7番目です。優良企業の表彰は、県と連携し盛岡市も表彰するというので、一緒に審査をするということですか。あるいは、今まで県と連携して優良企業表彰する取組はなかったという事ですか。

<村上保健福祉部長>

県で今年初めてアワードを始めまして、それに盛岡市も共催し、盛岡市に拠点をもつ企業に対して、盛岡市長賞を出しました。

<植田座長>

盛岡市で、ものづくり産業というとどんな分野を指すのでしょうか。

<沼田商工観光部次長>

盛岡市では、平成25年に工業振興ビジョンを策定しました。本市は、工業については北上市などと比べると、それ程企業が集積している訳ではありませんが、中でも盛岡を特長づけている金属機械加工業や食品加工業、そして実際に「もの」を作っている訳ではありませんが、IT関連産業、これを盛岡市の工業のリーディング産業と位置付けて、この業種の振興に取り組んでいます。

<鈴木委員>

県のものづくり産業の支援等を関連付けていますが、サービス産業が比重としては大き

な部分を占めていると思います。サービス産業の生産性というのは総じて低い、その中でどの生産性を上げていくのかというところで、就業訓練などの支援やサポートなど、盛岡市ならではの支援が産業を強くし、所得水準を上げる部分に必要なだと思います。

<沼田商工観光部次長>

盛岡市は、第三次産業が就業人口及び事業所数において、全体の9割以上の割合を占めており、市の重要な産業という認識を持っています。今までは、個々の企業の経営改革や制度を通じた支援を行ってきましたが、委員御発言のとおり、盛岡市における第三次産業、サービス業なり小売卸の業種については、ビジョンをもって戦略を立てていく必要があると考えています。来年度から、どのような仕組みを構築し、支援していくかを、内部で議して新たな市のサービス業に対する考え方を検討・模索して、体系付けた支援策を考えていきたいと、今準備をしているところです。

<北田委員>

観光関連で、外のプロモーション時にも内部のソフト事業が大切ですので、ぜひ取り組んでいただきたい。また、花巻空港利用促進の観点で記載されていますが、現実的には、もう既に花巻空港はチャーターベースなのでインバウンドはほぼないという状況と、実際のところ、今東北だと仙台空港がFIT個人のお客様を通してこられているのが現実です。仙台空港も視野に入れてプロモーションかける、また盛岡駅からの市内回遊の仕組みが特に不足してしまっていて、JRや宮城県との連携も視野に含めて頂ければと思います。

<畷田委員>

ワーク・ライフ・バランスについてですが、働き方改革アワードにも参加し、現に私どもの会社も取り組み始めた会社の一つではありますが、勉強すればするほど、取り組めば取り組むほど、社会全体で取り組まなくてはいけない非常に大きな問題だと実感しています。今の取組は、ある一定の効果は出ているとは思いますが、もう少し社会全体で推進していくべきだと思います。多分、この言葉すら知らない経営者の方も多いのではないのでしょうか。自分の会社が頑張っても、周りの会社の理解がないと、なかなか推進できないと思いますので、更なる取組の評価と推進を図っていくべきだと思います。

具体的には、そういう先端企業に対するインセンティブや、行政が率先してワーク・ライフ・バランスに取り組むことで、社会全体が変わっていくように仕掛ける必要がありますし、勉強すればするほど待たなしの施策と感じていて、盛岡市では早くから取り組まれていると認識していますが、そういった意味でも更なるリーダーシップをとって推進して頂けることを期待したいと思います。

<熊谷市長公室長>

27年度から取り組んで、全国的には多分トップレベルでの早さだったと思っています。銀行など主要な企業を訪問しお願いに歩きました。委員御発言のとおり、ポイントポイントでしかないということになりますので、大げさではありますが、ワーク・ライフ・バランスが街の文化になる、そういう事を標榜しなくてはいけないのではと考えていま

す。そのためには、何らかのインセンティブを付与するのも重要ですので、さらに工夫していきたいと考えています。

<植田座長>

やはり、前回議論した盛岡市ですら人口流失というのは、女性の方が多いという問題とも関連しています。要するに、仕事を続けるか、ここで子供も産むかと、どちらか一つにしようと思う訳です。ワーク・ライフ・バランスが保てていれば両方できる訳です。

盛岡市役所が率先して取り組み、民間企業に見本を示す必要があります。また女性の育児や出産だけではなく、若い人達が、定時で終わって街に出て行くことで、いろいろな社会活動に関わるようになると、街中の活性化に繋がっていきます。ぜひ、盛岡市に全体のムーブメントを作ってってもらいと思います。

<村松委員>

大学等の就職動向調査について、前回質問させて頂いた時に、中小企業への人材確保策として奨学金の返済支援を考えて頂けないかという意味で意見したつもりでしたが、回答を見ると、保育士やものづくり産業に限定されていると感じました。少し中小企業の人材確保というポイントから外れている点と、ものづくりに関連しない産業を含めて全企業に向けての支援策は検討されているかという点について、お伺いします。

<沼田商工観光部次長>

現時点で盛岡市として、全産業の採用活動に対するインセンティブなり、助成制度について、具体的な考え方は持っていません。岩手県では、ものづくり産業に対する奨学金の支援制度を作りますので、市内でも活用できる企業はあると考えています。採用について私どもが捉えている課題は、企業の採用に対する考え方や学生に対するアプローチが弱いのではないかと危惧してしまして、平成28年度から中小企業の採用力を高めるためのセミナーなど実施し、企業が有能な人材を採用できる支援を行っています。今後、中小企業の採用に向けて、いろんな業界から話を聞きながら検討していきたいと考えています。

<鈴木委員>

インバウンドをどう呼び込んでいくかというところで、花巻空港が厳しいという話でありました。確かに今東北への入り口というところでいうと、仙台空港が昨年民営化し、設備も相当入ってきています。当社でも、この1月から岩泉町と東松島市、松島町、この3自治体で圏域を超えた連携をし、仙台空港からの2次交通ということで、基本的には毎日運行する形でスタートしています。当社は、基本的には運行の委託を受けており、あとは海外のエージェントやそれ以外のメディアも含めたプロモーションをかけて、その2次交通の利用を増やしていくという取組を行っています。5月には、無料Wi-Fi、フリーWi-Fiに加え、5か国語のガイダンスによりガイドを乗せて、ポイントポイントで観光案内を行います。この取組が目指すのは、数年以内には自走することです。要するにお客様からの運賃で、事業としてまわす形までもっていきこうと努めています。

そういった仙台空港から盛岡まで、川を活用した観光地づくりなどいろいろありますが、

それと連動させて2次交通の部分でも、仕組みを作って実際にプロモーションをかけていくというのも、非常に有意義ではないかと考えます。盛岡の市内観光も、当社と盛岡市で連携し取り組んでいます。なかなか利用が伸びていないのが事実です。インバウンドで考えていくのであれば、いろいろ考えなければならないこともあると思いますので、具体的なメニューを幾つか実証という形で行い、人を呼び込む仕掛けと観光地づくりを合わせて取り組む必要があると思います。

<植田座長>

総合戦略とは、アウトプットだけではいけない、アウトカムがないと何の意味もない。

資料1では、今後の取組に対する意見と対応ということで、さまざまな御提言や御意見が出ましたが、今後、個別計画等に反映する方向で検討して頂きたいと思います。全体を通して公室長さんから御発言願います。

<熊谷市長公室長>

ただいま植田座長からお話があったとおり、アウトプットではなくアウトカムだという事だと思っています。今、盛岡市でも人口流失がなかなか止まらないという現実があります。特に若い年齢層、男性よりは女性の方が多い傾向があります。先だつての新聞では、東京圏での平成28年、1年間の社会移動が、プラス11万某と人口流入が多いと報道されました。平成27年は、盛岡市から東京圏に900人以上の移動があり、だんだん少なくなっているものの、やはり社会移動をどう止めるかというのが、課題です。

行きたくないが行かざるを得ない人をどうやって留めるかというのが大きなポイントと考えています。そのためには、ワーク・ライフ・バランスの推進、それから働く場の確保、就業環境等さまざまな問題があるかと思っています。いずれ今頂いた御意見を基に、29年度以降、具体化するべきものはしっかり具体化していきたいと考えています。

<小川課長>

資料2を説明。

<植田座長>

14ページのKPIで、ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数とありますが、ワーク・ライフ・バランス推進事業は、具体的には、人材養成講座ですか。

<村上保健福祉部長>

保健福祉部で行っているのは、経営者の勉強会とコンサルタントの養成講座です。それぞれ定員を決めていますので、それだけに限らず、いろいろな取組に発展することを想定して目標値としています。実際、ワーク・ライフ・バランスは、保健福祉部だけの取組だけではなく、男女共同参画という考えから市民部でも取り組んでいますし、広い意味での企業支援であれば商工観光部というように、市でも取組自体は広範で行っています。

<熊谷公室長>

120社は、毎年定員20社（人）となります。基本的には、企業の人事部長など対象にワ
養成講座を27年度から実施しています。中には1社から3人とか4人とか複数参加される
場合もありますが、定員20人という事ですので、10社、20社くらいの企業の人事担当者
が養成講座に参加するということになります。1講座当たり6回か7回ぐらいの連続講座
ですが、受講した企業の累積数が、31年までに120社にするという目標値を設定というこ
とでご理解頂きたいと思います。

計画事業にあります。人材養成講座の開催が、ワーク・ライフ・バランス推進事業と
なりますので、講座の受講を通じて、ワーク・ライフ・バランスを推進していくこととし
ています。

<植田座長>

計画事業に、ネットワーク事業を支援するとありますが、これはどういう事が含まれる
のでしょうか。

<村上保健福祉部長>

受講生の集まりのようなものができるのを期待しています。一過性ではもったいないと
の意見もあります。まだ始まったばかりなので、そういう広がりはいずれからなるのかと
思っています。

意見交換を通して、例えば、うちの会社ではこういう提案により、会社の理解を得て取
組がスタートしました。そのような部分で意見交換されるというのが望ましいのではない
か。それを機に、さらに発展的なネットワークに結び付けられればと思います。

<鈴木委員>

例えば、ワーク・ライフ・バランスの推進について、取組の中で、実際にこういう課題
があってもなかなか上手くいかない、逆にこういう事をしてもらえるとこういう事ができる、
そういったものを吸い上げ、市がどういう事ができるのか検討していくことも有効ではな
いかと思います。実際やろうとした時にどういう課題があるのか、逆に参加者から情報を
集め、その解決策を考えていくことが、広く浸透していくことが大事です。その中で、い
ろいろなコミュニケーションも生まれてきます。

<熊谷公室長>

その通りだと思います。市では、ワーク・ライフ・バランス社に講座を含めた事業を委
託しています。講座を通じ、いろいろな課題が出て、ワーク・ライフ・バランス社のアド
バイスにより解決に結びつくのではないかと取り組んできました。今、委員の発言のとおり
、課題と解決策を共有することが、やはり大きな威力を発揮するのではないかとしま
す。その辺りの共有について、どの手法が有効かは研究する必要がありますが、ある課題
に対し、このような事をやったら有効だったといったことを共有できる場について、工夫
することで、輪が広がっていくと思います。

<畠田委員>

私、現在その養成講座に参加しています。そこから感じるのは、ワーク・ライフ・バランス社のコンサルタントが来ているので、熱心に取り組んでいれば、たくさんの事を教えてもらえますが、終了するとそういった機会がなくなりますので、継続的に取り組んでいかなければならないと考えています。4回講座で、ワーク・ライフ・バランスができるようになったというわけにはいきませんので、継続的な情報共有の場や啓発の場を作っていくのが効果的だと思います。

<村上保健福祉部長>

参加して頂いている方は、本当に熱心であると感じています。もっと多くの方に受講していただきたいと思っておりますが、小人数で内容の充実した講座にしたいということもあり、飛躍的に広げられない部分はありますが、毎年の積み重ねの経験をどう繋げていくかを検討していきます。

<橋本委員>

26 ページに追加された大型観光キャンペーンの中で、「いわて観光キャンペーン」は、東北絆まつりとの説明がありました。計画事業に追加をしたという事は、今後の東北絆まつりについて、盛岡市では、例えば2順目の開催等を前提にしているのか、支障のない範囲で現時点の考えを教えてください。

<沼田商工観光部次長>

東北絆まつりは、今年6月の10日、11日に仙台市での開催が発表されました。30年度以降は、持ち回りでの開催を各首長で合意をしていますが、来年度の開催地は、まだ正式決定はしていません。盛岡市としては、来年以降も参加しながら、東北の復興や東北の魅力のアピールを続けていきたいと考えています。

<鈴木委員>

26 ページ目の新規「総合交流ターミナル機能拡充事業」について、総合交流ターミナル施設の整備とは、具体的にはどういった内容でしょうか。

<小川企画調整課長>

玉山地域にある総合交流ターミナル施設「ユートランド姫神」の整備になります。設置当初の目的の一つである交流機能を強化しようと、温泉浴場や農家カフェ・レストランなどの改修のほか、交流・体験プログラムを構築・実施することで、交流人口の増加を図ろうとしているものです。また宿泊棟を改修し、ゲストハウスに模様替えするなど、外国人観光客の受入にも注力していきたいと考えています。

<熊谷市長公室長>

それではこれもちまして、第3回盛岡市まち・ひと・しごと創生総合推進会議を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。